

I. 実施の経緯

ファカルティ・ディベロップメント（以下FD）が本学において意識されるようになったのは、平成 15（2003）年 8 月の各学部・センターの有志の教員 14 名からなる「FD勉強会」の組織からである。そこでは、FDの定義についての確認、FDに関する他大学の状況説明等があり、これらにつき意見交換がなされた。また、学部・学科、センターにおけるFDへの取り組み状況が紹介、説明され、また、経済学部、法学部・法学科、スポーツ健康科学センターおよび外国語教育研究センターが実施（あるいは予定）していた、学生による授業評価アンケートについての報告もあった。その後「FD勉強会」は「FD研究プロジェクト」と名称を変え、FDをめぐる様々な事項について意見交換がなされ、とりわけ授業評価アンケートやFDを推進してゆくための組織について集中的に討議された。その結果、「ファカルティ・ディベロップメント準備委員会」を経て、学長補佐を委員長とする「学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会」（以下、「FD推進委員会」）が発足、平成 16（2004）年 7 月、第 1 回の委員会が開催された。委員会規程によれば、本学におけるFDとは「授業に関する技量及び教育効果を高めるための組織的かつ継続的な取り組みを行うこと等を通して教育の内容及び方法の改善を図ること」であるとされ、委員会では、そのために全学の取り組むべき活動として、学生による授業評価アンケートの実施を緊急かつ最優先に議論することとなった。授業評価の主たる目的は個々の授業の改善にあるが、同時に様々なFD活動への情報提供という意味をも持ち、また学生や社会に対する説明責任を果たすための活動としても位置づけられている。

その後、FD推進委員会で、アンケートの質問形式と質問項目、アンケート対象科目、実施スケジュールと方法等について集中的に議論を進め、その結果を「授業評価アンケートの実施に関するガイドライン」としてまとめた。一方、授業評価アンケートの結果は個々の授業担当者に関する個人情報であると考えられることから、「学習院個人情報保護規程」の趣旨をふまえた「授業評価アンケートにおける個人情報の取扱いに関するガイドライン」がまとめられた。これらふたつのガイドラインにそって、教務部の協力のもとに実務に関する細部の調整が行われ、平成 18（2006）年度、全学にわたる授業評価アンケートが初めて実施された。